

シリーズ ⑳

生涯学習

学習ネットワーク

野波瀬

自治会大学

心の教育・少年問題を考える

野波瀬研修講座に80名

野波瀬漁協青壮年部の月例集会で、「近ごろ三隅町内でいろいろと少年の非行事件を耳にする。子どもをもつ親、家庭のあり方や考え方を反省する研修会をひらいたらどうか」との意見がだされ、漁協青壮年部と野波瀬自治会の青少年育成部・婦人部・文化部との共催で、青少年育成講座をひらくことになった。

公民館のご尽力で、前山口県育成学校校長の石田俊和先生を防府市から招き、10月31日の夜7時半から9時まで、野波瀬漁協会館二階の会場は約八十名の参加者でいっぱい。お父さんがほぼ半数。人は働かねばならぬこと。敬いの心をもつこと。甘えの

ろうけつ染展と創作花の展覧会を終えて

市 佐伯明美

秋たけなわの11月17・18日、去年に引続き、農業者トレセンにおいて二百人の来客を迎え、盛大に展示会を終えることができた。創作花の代表香月愛子さんと共に感涙にむせんでいる。

私とろうけつ染との出合いは、昭和43年の春東京での生活が始まった時である。新宿小田急百貨店の文化教室、先生は洋画家満留満先生であっ



た。右も左も知らない人ばかりのはずなのに、初日に数人の友人を得た。幸運なことに、皮染を三年半習う間に油絵も二年間描くことができた。その後、野田習之先生に布染を師事しながら皮染を教え、昭和47年の太平洋美術展に初入選、以来毎年東京都美術展に出品し、審査にも加わるようになった。さらに、来年の夏、ニュージーランドの国立博物館に着物の出品が決定している。

私の創作活動は、毎年5月の下旬に開かれる太平洋展をめぐってはじまる。前の年の12月に下図作りに入り、等身大のものに絵染羽の絵を描いていく。苦しみでもあり、楽しみでもあるが、一枚全部出来上がるまでに四、五ヶ月かかってしまう。

だから、私は一年に二枚しか完成できない。私は染物を通じて、何と多くの友人を得たことか。そしてその輪は、倍々と広がっている。私は、これからもきれいな空気と広い染場(庭)のある三隅で、私の目標である、伝統工芸展の人間国宝の作品に一步でも近づいていきたいと思っている。



ちいさな

美術展

農業者トレーニングセンター一階ホールで、油絵グループ「木曜画家」の絵画展が開かれています。

小学生から高校生、大人の愛好者のかたの作品15点が展示してあり、来館者の方から「色がきれいなねえ。」「僕も描いてみようか。」等の声が寄せられ、大好評をえています。

現在生涯学習をおこなっておられる方にとって、このような発表の場を持つことは、学習を広げ、深めていくために大切な要素となります。あなた(あなたのグループ)もぜひ利用されませんか。

お知らせ

公民館では、各自治会の研修会を応援します。御相談ください。